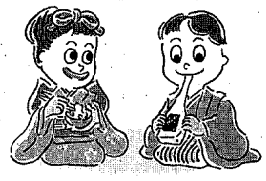


ふれあいのひろば

かわら版

平成23年１月１日発行
上平間第二町会
編集責任者
堤　秀夫
印刷所　長谷川印刷㈲

新年の御挨拶

町会長　堤　秀夫

昨年は想定外の出来事がありましたが、役員、理事、委員の御協力により、町会員の皆様の御理解が得られて、無事に活動を展開することが出来ました。

まず列挙するまでもありませんが40年の長い間、八幡神社の境内に安置されていた神輿、山車の移転問題が起きました。参議院議員の投票事務の手伝いや極めつきは5年に一度の国勢調査の実施で、担当した町会役員の苦労は大変でした。さて、年頭にあたり私たちは何を心がけるべきでありましょうか。御蔭様で上平間第二町会は川崎市やマスコミ等から大変に高い評価を受けていると聞いております。

高齢者見守りネットワーク、災害救助ネットワークをはじめ防犯活動では県警本部長表彰も受賞しました。これからも常に見直しを図りつつ、住民の期待に応えて努力をする所存です。

運動会　2位入賞

11月3日

リレー　バトンを受けて

リレー　一年生スタート

昼食風景　第二町会テント内

昼食の用意　町会婦人役員

―― 明るく「協調」して ――

伊勢浦町会にて

祭礼

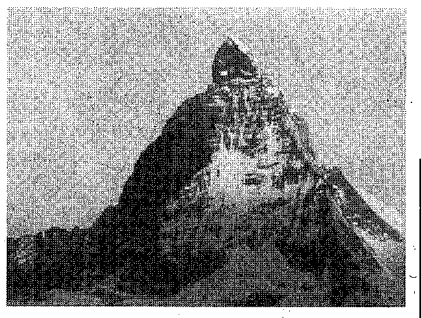
10月2日～3日

祭礼点描／神輿と青空野球部

祭礼点描／山車と子供

―― 明るく「夜明け」のごとく。旅風会の旅行にて ――

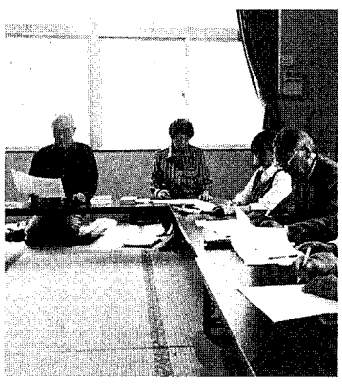
アンコール・ワットの日の出



スイス　マッターホルン
(4478m)の夜明け

健康体操　ゆりの会

老人クラブ　カラオケ例会



俳句の会　選句風景

将棋の対局風景

ミニ・ディサービス

詩　草紅葉へ

リュウ

一列に
枯れよ
草紅葉

一列に
枯れて
夢を見て

一列で
吹かれ
また来年

皆さんより募集した標語の紹介

【防犯に関する標語】

大丈夫と　安心するな　気の緩み　二区二組　草薙　貞夫
この町は　皆んなが防犯員　三区四組　鈴木　邦子
ひったくり　日頃の油断　気を付けて　三区四組　森　善一郎
犯罪を　防ぐ近所の　底力　五区二組　森　善一郎
赤信号　暗い夜道の　裏通り　五区二組　上島　宣之
危険だろう　しないさせない　見過ごさない　五区二組　上島　宣之
家族で　防犯の　話題を始めよう　五区四組　黒澤　節子
防犯は　身近な事から　始めよう　五区四組　黒澤　節子
犯罪を　力合わせて　防ぐ町　五区四組　井上　安弘
犯罪を　させない皆んなの　目と心　五区四組　井上　安弘
明るい夜道へ遠回り　父さん先生の　護身術　八区二組　板垣　朋子
知らぬ人　挨拶一声　防犯に　八一一区一組　八木　啓子
気をつけよう　車道側の　貴重品　八一一区三組　渡部　真理子
お出かけは　玄関閉めて　鍵かけて　八一一区三組　渡部　栄一
オレオレの　詐欺など私は大丈夫　八一二区二組　茂木　久夫
自信過剰が　コロリと掛かる　八一二区二組　茂木　久夫
鍵かけて　お隣さんにも　声かけて　八一二区二組　茂木　久夫
鍵よりも　隣近所の心の輪　ガッチリ組んで　空き巣撃退　八一二区二組　茂木　久夫
遠回り　しても避けよう　暗い道　八一二区二組　茂木　ケイ子
自転車の　カギは忘れず　かけましょう　八一二区二組　津金　峻也
鍵かけて　隣近所に　声かけて　八一二区三組　小島　喜久子
夕立に　ドア鍵忘れて　帰宅せば　留守ドア施錠のバチアタリ　八一二区三組　柳川　純男
自転車の　カゴにカバー　ひったくり対策　八一二区三組　徳　時生
近所の目が　犯罪の芽をつむ　八一二区三組　新島　栄一郎
気持ち良く　頼んで出かける　両となり　八一二区三組　清水川　義美
防犯は　地域ぐるみの　皆んなの目　八一二区五組　丹野　政記
大丈夫　その安心が　事故のもと　九区二組　鈴木　實
声かけよう！　あなたの家の戸締りは？　ロイヤルコーポ2　井出　教子
防犯は　隣人と共に対策を　上平間住宅　大嶽　重信
家族同様近所にも　関心持つこと　防犯対策　上平間住宅　大嶽　重信
防犯は　何時も目くばり　心くばり　上平間住宅　佐藤　米三

【防災に関する標語】

日頃の備え　甘く見るな　自然の怖さ　二区二組　草薙　貞夫
災害は　一瞬にして　幸せ奪う　二区二組　草薙　貞夫
起きては遅い　災害の備え　二区二組　草薙　貞夫
落ち着いて　日頃の防災訓練　役立てよう　三区四組　鈴木　邦子
災害時　隣近所の　助け合い　三区四組　森　善一郎
備えよう　三日三晩の　食糧を　三区四組　森　善一郎
グラッと来たら　まず出口　五区二組　上島　宣之
転倒防止は　防災への第一歩　五区四組　黒澤　節子
何時でも　水と食べもの　忘れずに　五区四組　黒澤　節子
たいせつな　命をまもる　火災報知機　五区四組　井上　安弘
ゆとり準備で一安心　家族で話そう　防災準備　八区二組　板垣　朋子
鍋かけて　気持ちはよそに　火の用心　八一一区一組　八木　啓子
履物は　常に身近に　備えよう　八一一区三組　渡部　真理子
天災は　忘れた頃にやって来る。そなえよ常に!!　八一一区三組　渡部　栄一
離れて暮らす身内より　隣近所が頼りです　八一二区二組　茂木　久夫
グラッと来たらまず避難　それから消そう　ガス電気　八一二区二組　茂木　久夫
災害の　恐怖を癒す　日頃の備え　八一二区二組　茂木　久夫
避難時は　まず老人と　病弱者　八一二区二組　茂木　ケイ子
災害時　頼りは近所　お隣さん　八一二区二組　茂木　ケイ子
非常食　水も忘れず　三日分　八一二区二組　茂木　ケイ子
地震だぞ　机の下に　すぐ潜れ　八一二区二組　津金　峻也
避難路　家族皆で　再確認　八一二区二組　津金　千春
倒れれば　家具でもテレビでも　凶器です　八一二区二組　津金　千春
お互いの　協力一致が　身を守る　八一二区三組　柳川　純男
災害に　備えてたどる　避難場所　八一二区三組　小島　喜久子
地震に備え　事前の準備　十分に　八一二区三組　徳　時生
事前の訓練が　身を守る　八一二区三組　新島　栄一郎
電話チャイムが鳴ってても　目は離せない　油鍋　八一二区三組　清水川　義美
訓練で　身につけ　皆で助け合い　八一二区五組　丹野　政記
戸締り火廻り　気を配り　九区二組　鈴木　實
災害は　いつ来るかわからない　心に余裕を日頃から　ロイヤルコーポ　井出　教子
災害の　本当の怖さはわからない　疑似体験が急務かも　上平間住宅　大嶽　重信
災害に　関心持つこと大切で　それには第一疑似体験を　上平間住宅　大嶽　重信
「グラッ」と来たら　身を守り　火を消す　上平間住宅　佐藤　米三
防災の　情報伝達　しっかりと　上平間住宅　三堀　晴男
防災は　まずは心の備えから　上平間住宅　三堀　晴男
うっかりが　大事につながる　火の用心　上平間住宅　三堀　静子

平間小学校 招待給食

一年生の教室　11月8日

児童生徒の登下校の見守りをしているいわゆるキッズガードの皆さんを給食に招待したいと年に2回御案内を受けております。今回も各教室に別れて子供と同じ給食を食べ、お話をし、心のこもった歌の合唱を聞くことができました。そして子供達全員の寄書きのプレゼントがありました。

思い出のコーナー　沼田盛次氏を偲ぶ

去る10月町会相談役を勤めておられた沼田盛次さんが逝去されました。沼田さんは消防団で長く活躍された後、第二町会の草創期から町会の活動の基礎を築かれた方であります。

氏の活動された軌跡は町会創立50周年記念誌に「町会の小さな思い出」として自ら書かれております。花火大会の前身となるキャンプ・ファイヤー、凧上げ大会は各人が竹を割って作った凧で作品賞を競ったとあります。また神輿、山車についての思い出では、神輿は千葉県の行徳で、山車は東京の浅草で買い求めたそうです。また、町会の新会館建設には当時の会長であった水嶋新三さん達と共に大変な苦労をされた様子が伺われます。そして現在の町会役員の主立った人たちも、多く沼田さんのお声がかりで町会役員になった人達です。

戦時中は支那事変（現在は日中戦争と呼ばれています）に駆り出され敵味方が僅か50Mの距離で撃ちあった話などを酒を飲みながら懐かしげに語っておられました。町会の広報紙の「ふれあいのひろば」にも植木をこよなく愛したエピソードが書かれています。曰く、人生の最大の楽しみは庭木の手入れで、愛情を注げば必ず応えてくれる、女房の次に大切だと書いておられます。その最愛の妻イツさんに先立たれた僅か2ヶ月後に他界されました。町会発展の大功労者の逝去に心からお悔やみ申し上げ御冥福を祈ります。

町会長　堤　秀夫

―― 在りし日の沼田さん ――

盆踊り寸描
左から水嶋・沼田・茂木の各氏

昭和51年10月5日
この子達は今いずこ

社会福祉協議会　福祉バザー

玉川小学校にて　11月7日

福祉バザー　焼ソバを販売

俳句の会　吟行・多摩川台公園

11月17日

詩

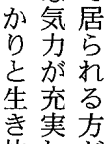
鴨チェス

リュウ

真冬の水に
鴨が浮かんでいる
その散らばり方がいい
ばらばらで
みんな
同じ水滴のような形に
まるまっていて
どれとどれが
カップルなのかもわからない
そうして
かすかに足を動かして
時には
一羽が鳴き声をあげ
時々には
数羽がチェスの駒のように
斜めに横切って見せたりする
しかし
どのように散らばっていても
人は
必ずそこに
一つの調和を見るのである
一体
どんな法則で
彼らは動いているのだろうか

希望

木の枝に
最後に残った　二枚の枯葉が
木枯しにふるえています
突然ビューっと　強い風が
吹き抜けて行きました
二枚の葉は　ひとたまりもなく
飛ばされて　空高く
舞上がって行きました
でも、くるくると舞う
枯葉たちは、
もう帰っては来られないのに
何故か楽しそうです
やがて、二枚の枯葉は　突然
思い切るように　くるっと
左右に分かれていきました
そして、見えなくなりかけた時、
透きとおったかすかな声が
聞こえてきたのです
「仲良くしてくれて
ありがとう、
春になったら又、逢おうね…」



H・T

俳句　天神台句会（十二月十五日）

真向ひて桜紅葉は錦なり　青木　源司
吾が人生桜紅葉の如くあれ
千年の古墳に桜紅葉かな
むさし野の古墳台地や秋時雨　荒井　スミ
秋時雨発掘遺跡資料館
秋時雨煙る多摩川古墳丘
手術してこんなに奇麗秋の空　斉藤　正子
二歩三歩妻に遅れる銀杏道
めぐり来て杖を片手の師走かな　梅田　松男
幾組かおしどり丸ろむ時雨寒　川部　露子
川一望紅葉戴く古墳群
氷雨中皆の笑顔やお茶タイム
寒いのよ話も句も出ないカプチーノ　佐藤　輝之
身に入むや多摩の岸辺に舞う白鳥
亀甲で整いません秋時雨
砂ごはん落葉を入れて混ぜ御飯　四津田富美子
水溜り落葉泳がす小さな手
よちよちにしゃがんであいさつ小春かな
おむすびとおでんで夕餉帰国せり　高山　房子
虹かかるイスタンプールに入港す
イタリアの初冬の街を娘と散歩
静寂の極み雨降る落葉降る　堤　秀夫
どうだんの紅葉照らす庭園灯
ならくぬぎ天に紅葉のグラデーション
ひっそりと桜紅葉の小酒宴　滝口　園美
秋渇き人に懐きしあひるかな
凍む丘に友の笑顔と手弁当
蛇行する多摩川包む冬野かな　松森　礼子
墳丘の桜紅葉や雨雫
黄葉や田園都市のたたずまい
桜葉の色おりなして露光る　茂木　久夫
ゆったりと錦映れる川面かな
錦秋の亀の子山や白き富士
高塚に教会の鐘秋果つる　山上　正
鈴形に鹿形埴輪冬の午後
荷車に積まれて落葉山を降り
雪催ひ手に石焼の芋温し
病癒へ厨に妻の音さやか
雨に散る桜紅葉や多摩古墳
裸木となりて捨て巣の現わるる
焚火禁止の地域となりぬ大欅
良き夢を見る為布団干しにけり
長谷川照世

短歌

傘寿越し時にしみじみ時に熱く
語り合う友の居る幸せ
雲の名と木の名花の名語りつつ
娘と走る秘湯への旅
浮く時も沈む日もあり生きゆかむ
行く年来る年鐘の身に沁む　高山　房子
御神楽の女性も混じり奏される
外は多摩川初日を受けて
鏡のごと真冬のプール人の世を
真っ逆さまに沈めゆくかな
梅林の白と赤とが流れゆく
電車の窓は小さきスクリーン　松森　礼子
病む妻に為す術もなき歯痒さよ
唯励ましつ祈る日々なり
癌病める妻と契りて五十余年
共に生きたしあともう少し
闘癌の闇を潜りて妻還る
両手に余る春を携へ　茂木　久夫

主亡き庭の柿の葉果てしども
細き杖先天を貫く
あかぎれの我が指先を見つめつつ
過ぎゆく時の深さ覚えむ
母の日に娘より貰ひしガーベラの
冬陽に咲きてあたたかきかな　ばった
人生の終りに近いわれはいま
くいのみのこるさみしい思い
遠方の友との電話長くなり
近くにいる家族目で合図する　鈴木竹子90才
絶海の島人達の診療に
ひたすら生き抜く人間愛に
歳月は流水の如この年も
早極月となりにけるかも　H生
一命を賭して登りしキリマンジャロ
登破して涙に光り有り
今の世は不満不安の多かれど
喜び生きる証残さん　青木　源司

人生を謳歌

人生80年時代と言われて久しいが、まだまだ元気の方々が居られて、人生90年時代到来も夢ではなくなってきた。

石井先輩は今年で満88才になられる。今年4月末にこれまでお世話になった人達に感謝するという集い「感謝のリサイタル2」を開催された。2というのは2回目ということである。

ホテルの会場はシニアの男女でむせ返る様な熱気であった。感謝の集いは関係者の祝辞と激励のあいさつで始まったが、本番が凄かった。本人の歌が朗々と歌われ、「オーソレミオ」「忘れな草」「芭蕉布」「初恋」「歌劇トスカより」「歌劇トウランドット」等と9曲に及んでびっくり仰天。次いでダンスである。ルンバ、タンゴを美しいダンサーとペアを組んで見事に踊り終える。懇談の中で合唱が始まり「千の風になって」を参加者全員で歌って会を盛り上げた。ただ、びっくりしたのは、石井さんは病弱だった妻の介護に一心に尽くされ、その甲斐もなく亡くなられた後、80才を過ぎてから英会話教室に通い、海外旅行では通訳要らず、ダンス教室に通って発表会にも出場して入賞し、歌謡教室にも通ってマスターする迄になった。

私達との付き合いでゴルフもするが、このファイトは何から生まれてくるのか、聞く訳にもいかず、憶測するしかないが、良く判らない。健康だろうか、気力だろうか。毎日を漫然と暮らしている私には追い付く事のできない世界に暮らす人である。

第二町会には百才を越えて、かくしゃくとして居られる方が居られる。みんな気力が充実しておられる。しっかりと生き抜く気力を持ちたいものである。

蜃気楼